

# 岩手県感染症週報

平成16年第30週（7月19日～7月25日）

岩手県結核 感染症情報センター

## 第30週の概要

### 1 類感染症

### 2 類感染症

患者発生の報告はありませんでした。

### 3 類感染症

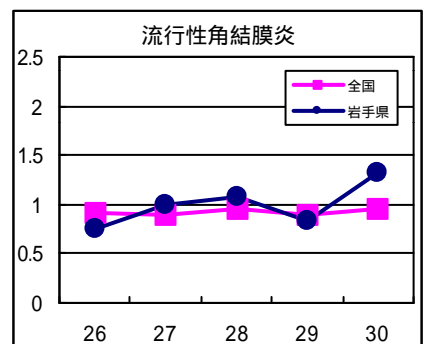
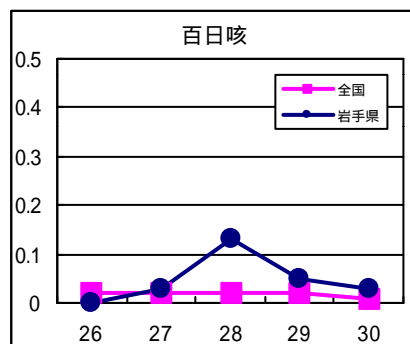
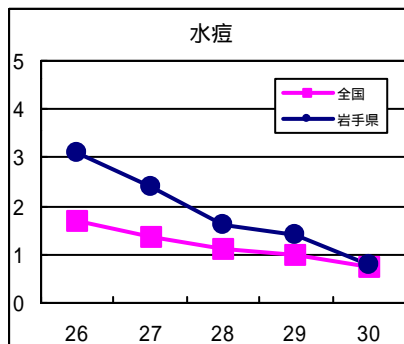
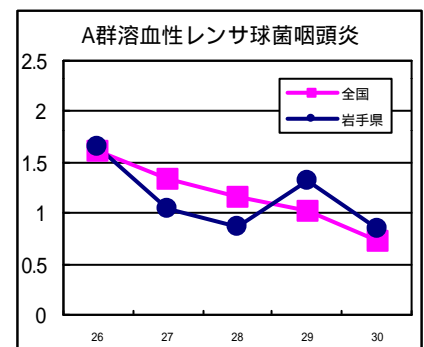
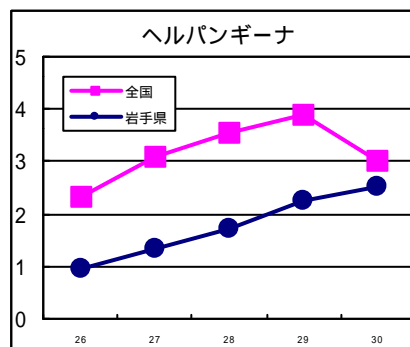
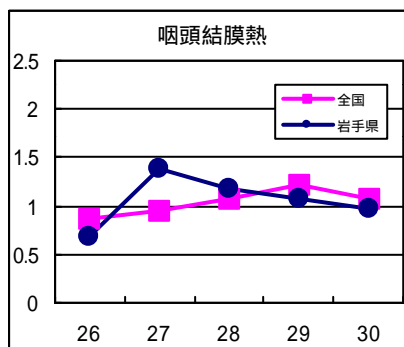
・O157などの腸管出血性大腸菌感染症は、盛岡、水沢、宮古地区からそれぞれ1例ずつ計3例の報告がありました。宮古地区の例は前週届出のあった患者からの家族内感染でした。同疾患の全国の累積報告数は1,128例（第28週まで）とほぼ例年並みです。同疾患は合併症として急性腎不全となる溶血性尿毒症症候群が知られていますが、本年はこれまで死亡例はないものの19例（10歳以下14例、60歳以上5例）報告されており、小児と高齢者に注意が必要です。

### 5 類感染症（定点把握対象疾患）

- ・咽頭結膜熱は、本県ではほぼ流行のピークを越えたものとみられ、患者数は徐々に減少しています。しかし、盛岡、花巻、北上、久慈の4地区では警報値（定点当たり患者数1.0人）を超えており、依然として注意が必要です。
- ・ヘルパンギーナは盛岡、大船渡、久慈、二戸地区で患者数が多く、その他のほとんどの地区でも増加中です。患者の年齢は1～6歳が多くなっています。病原体のウイルスは上気道だけではなく、腸管でも増殖し、糞便とともに排出されるので、おむつ交換や排便の後などの手洗いの徹底が感染予防に効果があります。
- ・百日咳は、先週に引き続き宮古地区から1例の報告がありました。

## 最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

（疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意）



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向	
		26	27	28	29	30		
インフルエンザ	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0	0	0	0		
咽頭結膜熱	岩手県	0.68	1.39	1.18	1.08	0.97	↘	
	全国	0.87	0.95	1.08	1.21	1.08		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.66	1.05	0.87	1.32	0.84	↘	
	全国	1.62	1.33	1.17	1.03	0.73		
感染性胃腸炎	岩手県	2.05	1.82	1.87	1.37	1.03	→	
	全国	3.68	3.27	3.12	2.96	2.47		
水痘	岩手県	3.11	2.39	1.61	1.39	0.79	↘	
	全国	1.7	1.35	1.11	0.99	0.75		
手足口病	岩手県	0.11	0.11	0.13	0.03	0.08	→	
	全国	0.6	0.85	1.06	1.3	1.24		
伝染性紅斑	岩手県	0.63	0.53	0.34	0.34	0.55	↗	
	全国	0.63	0.58	0.57	0.41	0.29		
突発性発疹	岩手県	0.66	0.58	0.71	0.53	0.68	→	
	全国	0.79	0.85	0.84	0.86	0.78		
百日咳	岩手県	0	0.03	0.13	0.05	0.03	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01		
風疹	岩手県	0.03	0	0	0	0.03	→	
	全国	0.03	0.03	0.04	0.02	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.95	1.34	1.71	2.26	2.53	↗	
	全国	2.34	3.11	3.55	3.89	3		
麻疹（成人麻疹を除く）	岩手県	0	0	0	0	0.03	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.82	0.63	0.32	0.68	0.32	→	
	全国	1.05	1.02	1	1.13	0.94		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0.08	0	→	
	全国	0.03	0.01	0.02	0.03	0.02		
流行性角結膜炎	岩手県	0.75	1	1.08	0.83	1.33	→	
	全国	0.92	0.9	0.96	0.89	0.96		
RSウイルス感染症（患者報告数）	岩手県	0	0	0	0	1	→	
	全国	20	15	40		0		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0.05	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.03	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.04	0.07	0.1	0.09	0.12		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.45	0.4	0.4	0.35	0.1	↘	
	全国	0.22	0.24	0.23	0.22	0.22		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01		
成人麻疹	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0	0.01	0	0		

【流行傾向の見方】

- 無印：ほとんど患者が発生していません  
→：患者が発生しています  
↗：警報値を超えた地区が1～2地区あります  
↘：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患（過去5週の動き）								（患者発生数）	
分類	疾病名	（週） 岩手県						全国	
		26	27	28	29	30	累計	30	累計
一類感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類感染症	コレラ	1	0	0	0	0	1	6	37
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	3	7	261
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	34
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	42
	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	腸管出血性大腸菌感染症	2	0	4	6	3	18	99	1455
四類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	5	325
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	19
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	29
	回歸熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	急性ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	2	162
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	5
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	1	88
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	38
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	10	616
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	2	0	45
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	17
	先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	0	0	5
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ツツガムシ病	0	0	0	0	0	0	0	94
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	9
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	19
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	乳児ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	2	274
	破傷風	0	0	0	0	0	1	1	51
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	31
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	2	34
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	1
	レジオネラ症	1	0	0	0	0	1	1	74
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	0

昨年11月5日に感染症法が改正されたことに伴い、調査対象疾患が一部改正されましたが、本週報では当面の間、改正前の分類による情報をお届けしております。  
できるだけ早い時期に、新しい分類による情報をお届けするよう準備していますので、ご了承ください。

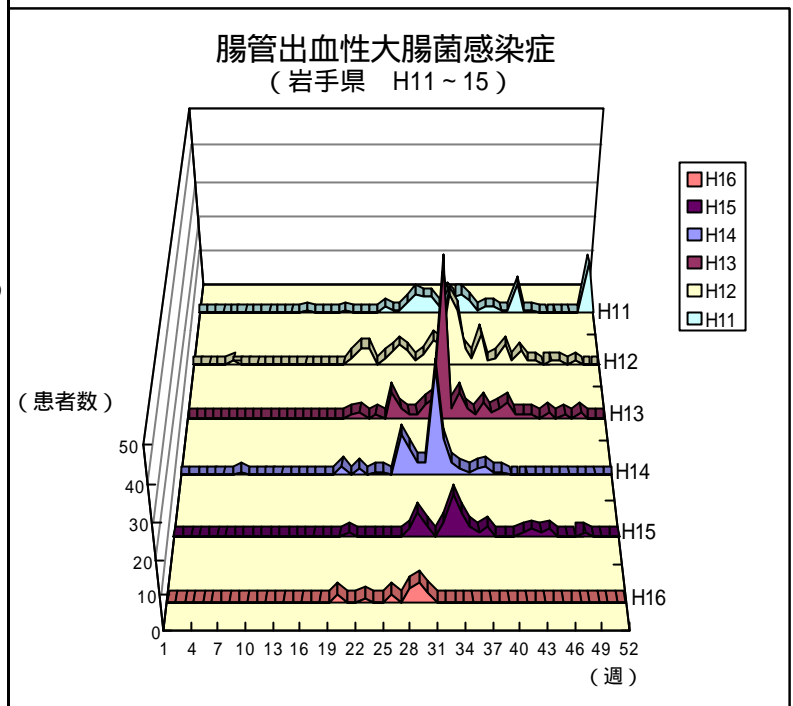
## 今注目の感染症

### 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の発生がここ数週続いています。例年、患者発生のピークは夏頃にあり、これから患者数はさらに増えるものと思われますので注意が必要です。

本疾患の病原体であるO157などの大腸菌は感染力が強く、初発患者からの二次感染も少なくありません。また、免疫力の比較的弱い乳幼児や高齢者の患者が多くなっています。

感染の予防には、一般的な細菌性食中毒予防の三原則、細菌をつけない、細菌を増やさない、細菌をやっつけることが有効です。また、血便を伴った下痢など、特有な症状が認められたらできるだけ早く医療機関を受診することが大切です。

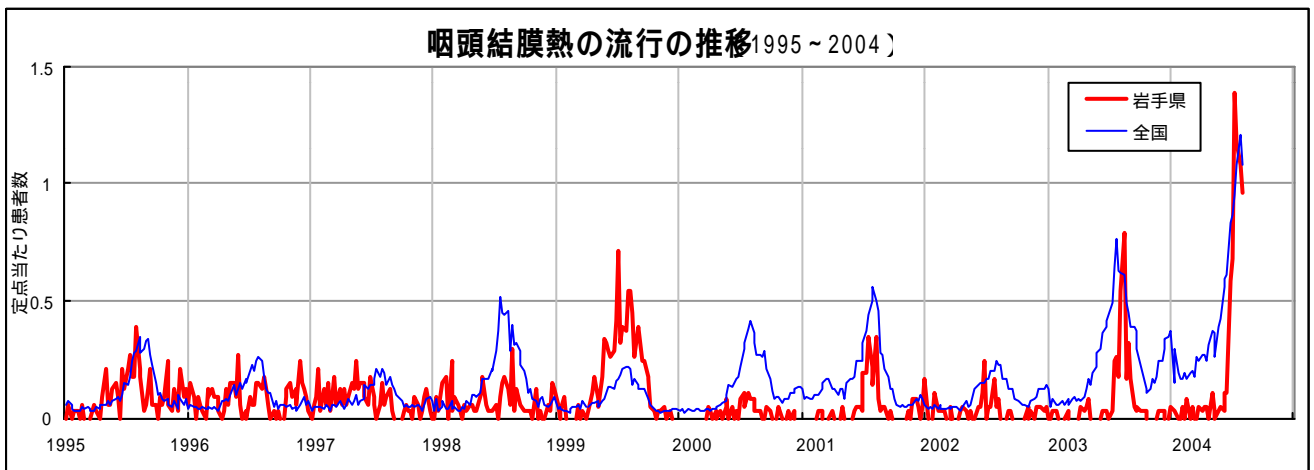


### 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第11週から増加傾向が認められているが、第26週には過去10年間の全ての週と比較して最高値を示し、その後も最高値を亢進し続けている。都道府県別では、埼玉県(2.3)、福井県(2.0)、新潟県(1.8)、富山県(1.8)が多い。

本疾患はアデノウイルスによる感染症で、発熱、咽頭炎、眼症状を主とする。プールでの感染もみられることからプール熱とも呼ばれる。夏季に流行する疾患であるが、2000年以降には、それ以前にはなかった冬季での増加傾向が見られ、特に昨年から本年にかけてその傾向が顕著であった。罹患年齢は従来から学童年齢が主とされるが、感染症発生動向調査による本年25週までの累積報告患者を年齢群別にみると、1～5歳の各年齢がそれぞれ13～16%で、5歳以下が全体の約80%を占めている。

(以上、IDWR2004年第28週から抜粋)



## 病原体検出情報

- ・上気道炎の患者の咽頭拭い液からアデノウイルス3型を4例分離検出しました。

## 集団感染情報

この週には集団感染情報はありません。

## 医療機関からの情報

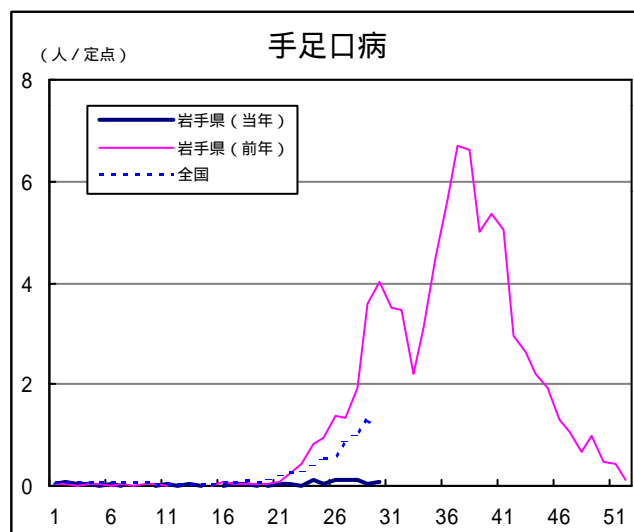
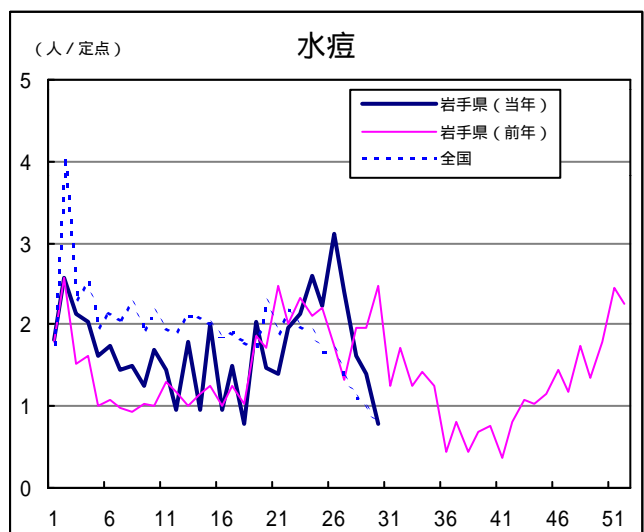
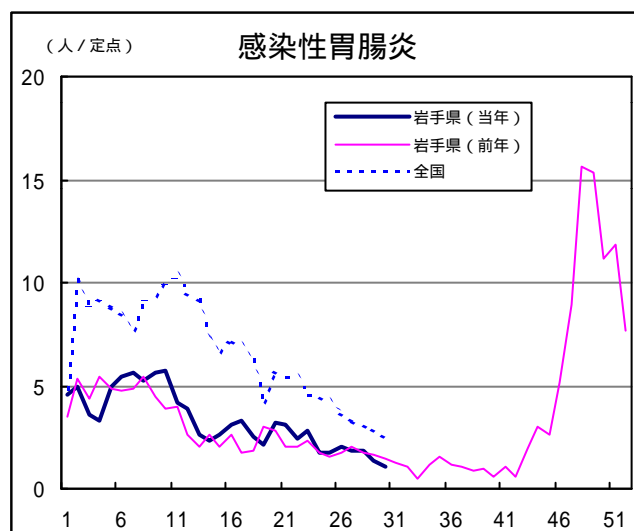
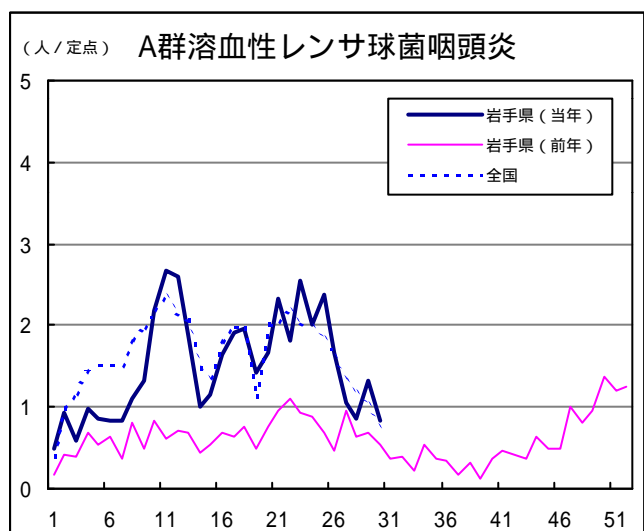
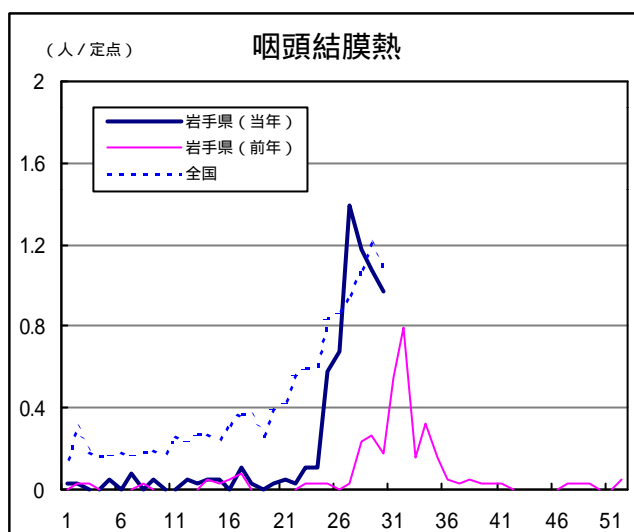
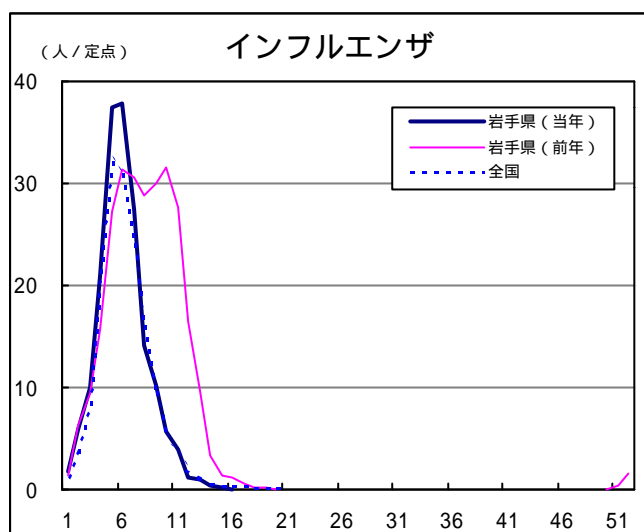
この週には医療機関からの情報はありません。

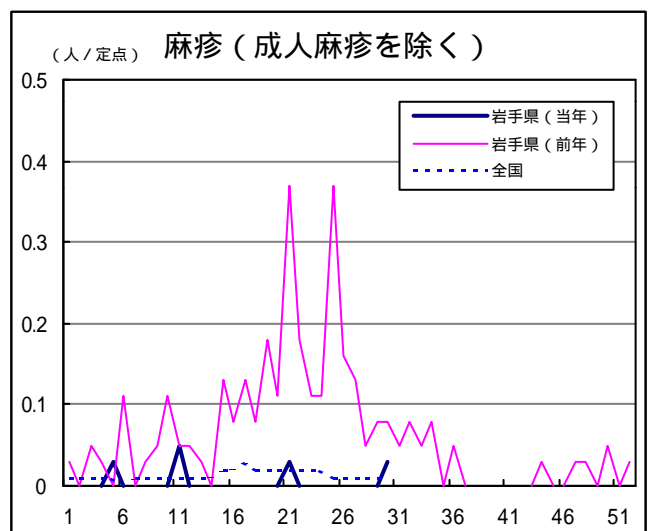
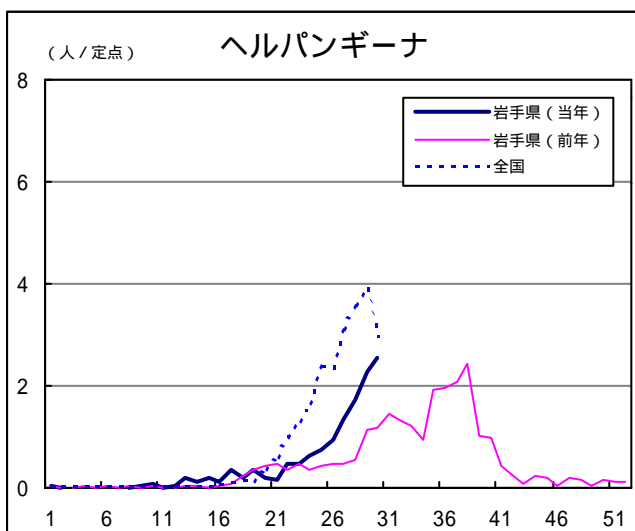
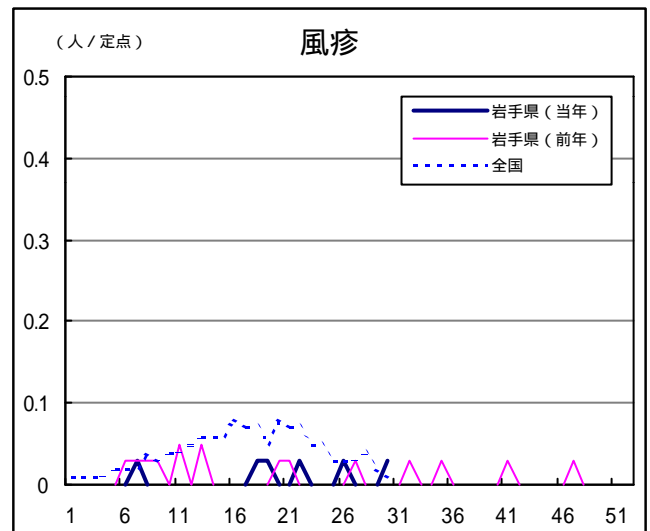
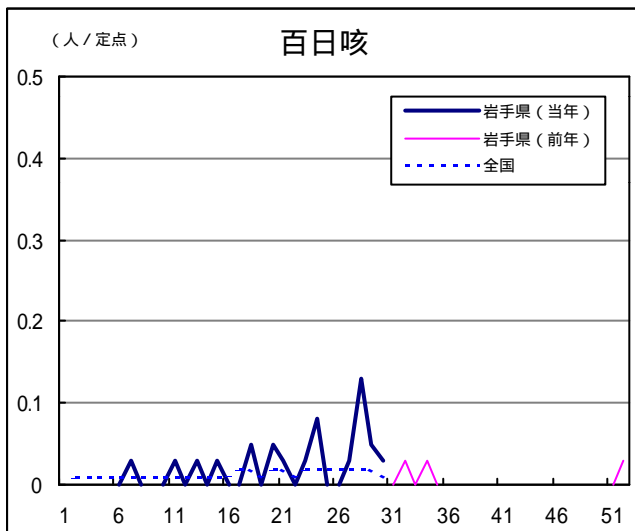
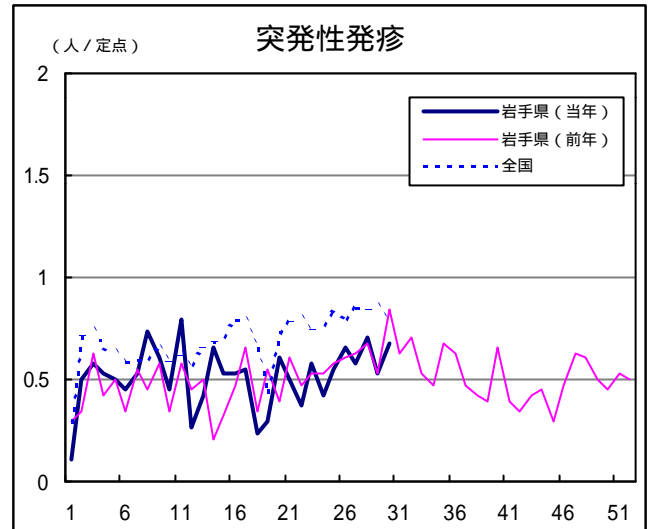
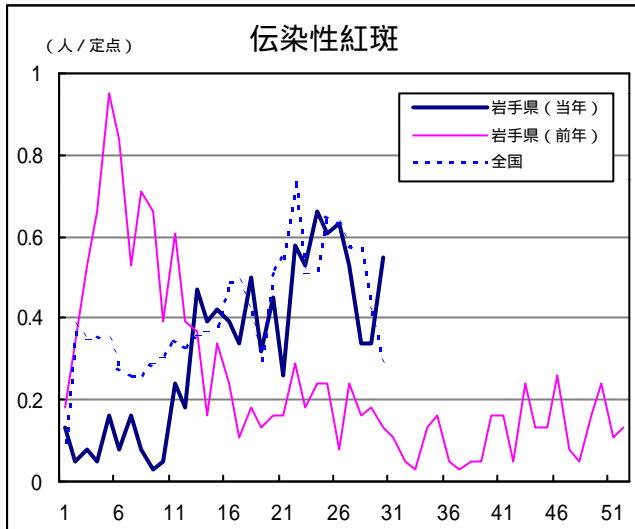
## Q & A

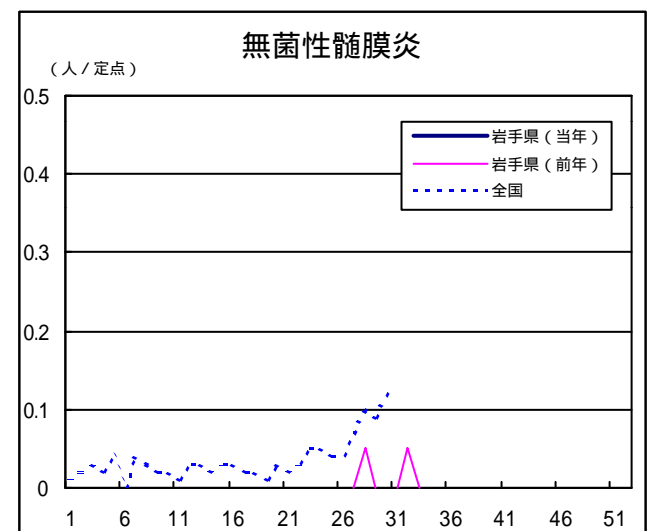
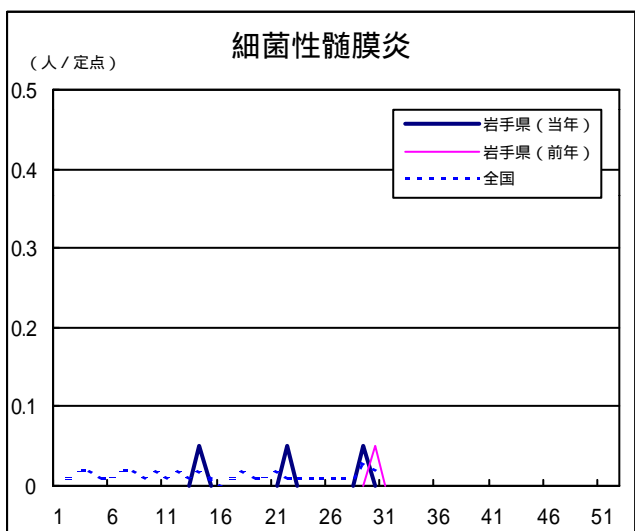
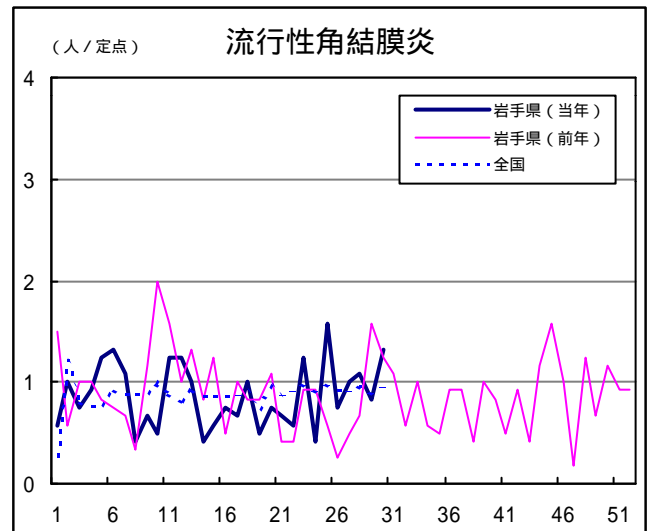
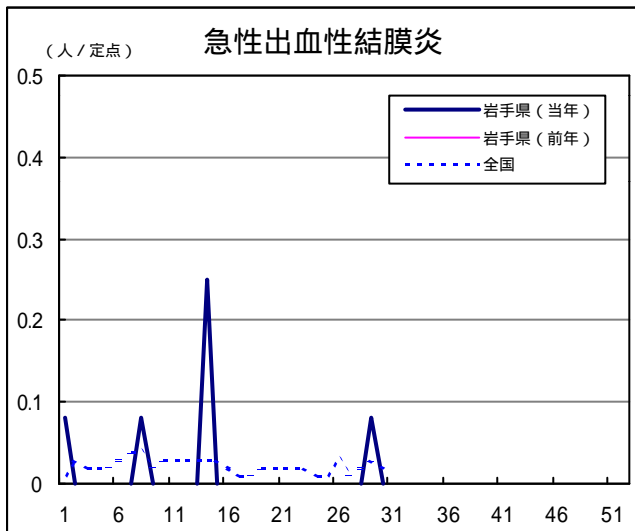
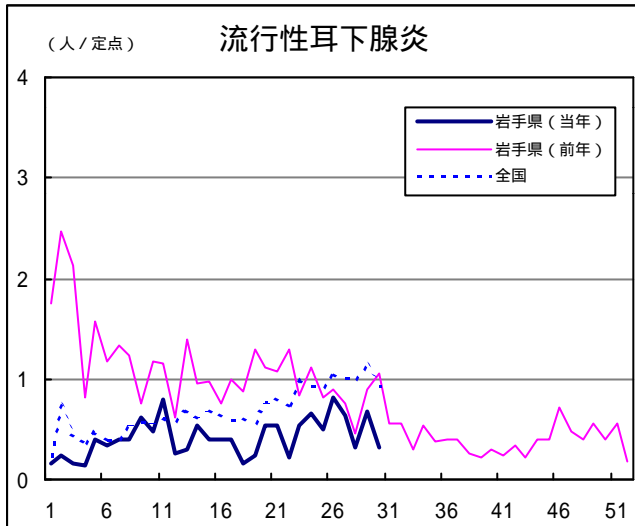
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。  
岩手県結核・感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1-36-1  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

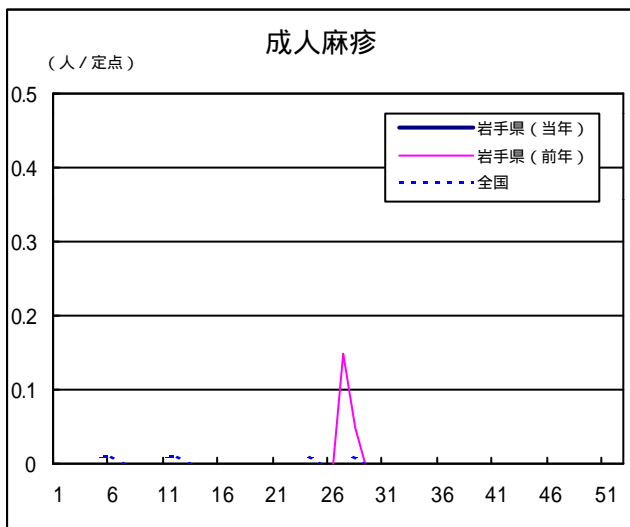
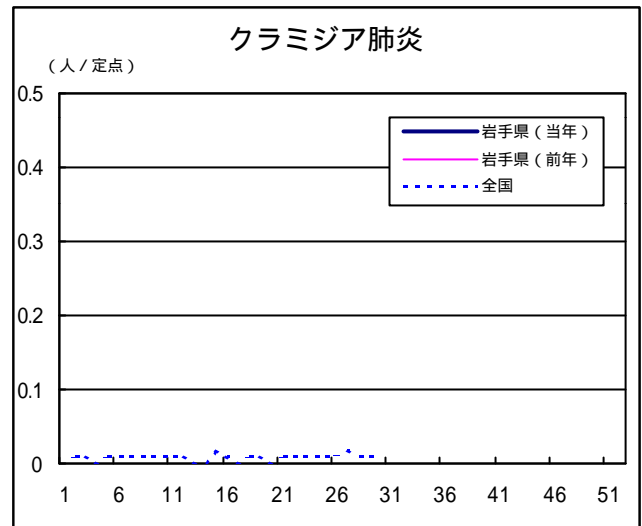
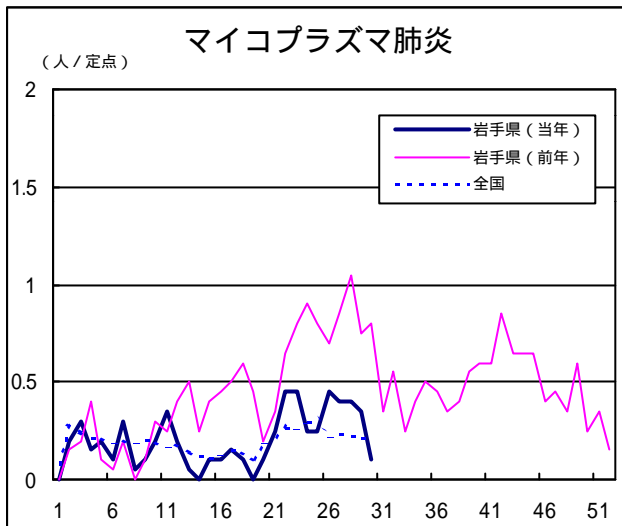
# 疾病別グラフ（定点あたり患者数の推移）











定点医療機関の数

定点種別 地区	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	62	38	12	20
盛岡	17	11	3	5
花巻	5	3	1	2
北上	5	3	1	2
水沢	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	3	1	1
釜石	5	3	1	2
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする  
**「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」**を配信しています。  
 配信の登録は以下のURLからお願いします。  
<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

無料です!!

岩手県感染症週報 平成16年第30週 平成16年7月30日発行

監修：岩手県結核・感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター

岩手県保健福祉部保健衛生課

事務局：岩手県結核・感染症情報センター

（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1-36-1

TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail：CC0019@pref.iwate.jp

URL：http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/

<岩手県結核・感染症情報センター>

http://www.pref.iwate.jp/~hp0360/

<岩手県保健福祉部保健衛生課>